

第22回 能美市タウンミーティング（男女共同参画推進委員）

平成30年3月16日（金）19:30～

寺井地区公民館202会議室

【司会】

ただいまから、能美市男女共同参画推進委員タウンミーティングを始めさせていただきます。まず初めに、ご参加の皆様を代表しまして能美市男女共同参画推進委員会会長にご挨拶をいただきたいと思います。

【能美市男女共同参画推進委員会会長】

皆さん、本当に寒い中、また日中の仕事のお疲れの中、お集まりいただきましてありがとうございます。私たち推進委員会としては、今まで長年いろいろところで活動してきましたけれども、なかなか男女共同参画ということが市民の間に浸透しないということが一番の悩みで、どのように市民の方々に男女共同参画を理解していただくかということが問題となっていました。きょうは、市長様にお越しいただき、私たち推進委員会の思いを聞いていただく機会を与えられましたことにすごく感謝しています。

市長も男女共同参画に対してはすごく熱い思いを持っているとお聞きしています。私たちがこれまで活動してきたこと、またこれからしようとしていることに対していろいろご理解をいただきたいと思います。

今までの活動ですが、去年は男女共同参画推進週間に合わせて懸垂幕を辰口の本庁舎に掲げました。それから、週間に合わせて図書館で男女共同参画についてのパネルや図書などを展示しました。また、寺井高校生と共同学習をして、11月にフォーラムを開催しました。市長も最後まで会場の中において市民の声をいろいろ聞いていただきました。そのフォーラムについては、市民の方々に男女共同参画ということを知っていただくのに、すごく成果が得られたのではないかなと私自身自負しています。

また、来年に向けて、いろいろと幾つかの計画を立てています。高校生との共同学習をしたり、女性で頑張っている方のお話を聞く講演会をしたりする予定にしています。また、来年度もいろいろな計画をして私たち推進委員のみなんで力を合わせて頑張っていきたいと思っています。きょうは、私たちの思いを市長様に聞いていただき、いろいろご回答いただきたいなと思っていますので、よろしく願いいたします。

【司会】

次に、井出市長がご挨拶を申し上げます。

【井出市長】

このような機会に皆さんと色々なお話をさせていただけるというのは、私自身、大変光栄に存じます。

今ほどご紹介あったように、県議会議員時代からこの男女共同参画に対して大変興味があります。その背景にあるのは私の仕事の生い立ちがあるのではないかと考えています。

家業は洋食器の製造でした。洋食器というのは、どちらかというとな女性が選ぶことが多いということもあって、デザイナーさんも女性が多かったり、それから、最終の検査をする方も女性が多かったりということがあります。まさに女性ならではの特徴を生かした仕事というのがこの洋食器の製造の中では大変多くありました。そういう背景もあり、この男女共同参画を推し進めていくことが社会全体の反映にとって大変重要だと思っています。そういう経験に基づいてこれまでも取り組んできました。

今、能美市の女性管理職の割合は約17%です。目標値が平成32年度までに20%を超えるということになっており、できるだけ平成30年度にはそれに近いところにまで持っていきたいなと思っています。それは、市役所の中にも大変優秀な女性がたくさんいるということでもあります。加えて、この男女共同参画を担当する部署は地域振興課が担当しています。まさに、男女共同参画というのは能美市全体の地域の中で貢献をしていく、そんな位置づけということですね。ちなみに、この課がどんな仕事をしているかというと、移住定住の促進、のみバスなど能美市の中でも重要な政策を考えているのが地域振興課です。

きょうは限られた時間ですが、色々なお話をさせていただければと思います。よろしくをお願いします。

【司会】

それでは、皆様から男女共同参画社会の実現に向けてのご提案、ご意見を頂戴してまいりたいと思います。

事前にいただいているご提案、ご意見について、順番にご発言いただきます。それぞれ井出市長から返答や意見を述べさせていただきます。それでは、まず、T委員のほうから、よろしくお願いいたします。

【T委員】

テーマがちょっと大きくなったかもしれないのですが、私の掲げました提案というのは、

男女共同参画推進モデル地区づくりです。

地域コミュニティにおける男女共同参画に照準を合わせて考えてみました。現在、能美市ではどの町会も役員のほとんどが男性です。能美市男女共同参画プランの数値目標にもありますが、町会・町内会における女性役員の割合は平成29年度まで0%です。男性社会の風潮の中、男性はもとより女性の意識も共同に向かえば、男女共同参画の実現に近づくのではないかと考えています。事案、事項によって男性も女性もそれぞれが活躍でき、参加できる仕組みができないかなと考えています。

そこで、女性も役員となる男女共同参画推進モデル地区のような仕掛けはできないでしょうか。市長のお考えをお聞かせください。

【井出市長】

Tさんからは、婦人会、女性会をもっと活性化することはできないかという大変大きなテーマもいただいておりまして、それとも関連するご意見、ご提案だと思います。

能美市内には74の町会・町内会があって、調べると大成町と大浜町と浜開発町と緑が丘の4町会に実際に女性の役員がいらっしゃいます。大成町の役員13人のうちお二人が女性です。それから、大浜町は13人のうちお一人、浜開発は14人のうちお二人、それから、緑が丘は副会長職3名のうちお一人が女性です。市内にはそういったケースがふえてきているという状況です。

それで、何人かの町会長、町内会長さんに女性を登用することに関してどう思われますかと聞きましたら、決してそういうことに対して拒んでいることはない。そうやって意欲がおありになる方がいらっしゃれば、ぜひ参加していただければということはおっしゃっておられました。

その一方で、町会によっては、例えば班などの長をされた方がその役員の中に入る場合があるので、どうしても互選ということになる場合があるようです。ですから、ご自身で手を挙げて町会の役員になるケースもあるのですが、互選によって、推薦によって役員になるケースもあります。そこは、それぞれの町会・町内会によって仕組みが違うと思います。

ただ、一言で言ってしまえば、手を挙げる方がいらっしゃれば、皆さん受け入れられるのではと思います。ちなみに、Tさんの町はどうですか。

【T委員】

寺島町は、まだ婦人会が存在しています。どのあたりを役員として認定するかというこ

とは町によって違うと思います。それでも婦人会は町会のメインではないですが、一応、婦人会の役員は町の役員会に呼ばれます。意見も述べることができます。

【井出市長】

そんな機会がふえてくれば、また変わってくるのかなと思います。町会・町内会長さん全員からお話を聞いたわけではないですけども、皆さん、総花的にそんなお話だと思います。

【司会】

このことについて、ほかにご意見はありますか。

【K委員】

某地区では、女性が町の集まりに行ったときに、何で女がこんなところに来るのかという目線で見られたということも聞いています。だから、先ほど市長さんが言われた、「意欲のある方がどんどん出てきてくだされば任せてもいい」というのは、幾つぐらいの方が言っていたのですか。年配の方ですか。

【井出市長】

私が聞いたのは70代前後の方だったと思います。

【K委員】

本当に心底そう思っているのか。その年代の方は、町会の仕事は男性がやるものだと思込んでいるところが結構あると思います。

【井出市長】

私が聞いた方々はそうではなかったです。どちらかという、そうやって手を挙げられる女性が少ないのが実態じゃないかということ逆を言われました。

【K委員】

挙げにくいというものもあると思います。

【井出市長】

例えば、各町によって違うと思いますが、町会役員になると、アメシロの消毒や配布物、それから、いろんなお世話があるケースが多いので、男性であれば比較的時間がとれるかもしれない、女性だとそんな時間がとれないという背景があるのかもしれない。

【T委員】

長い歴史の中で、男の人たちがつくり上げられてきた町会の組織の中に入って行くのは、なかなかやっぱり難しいのかなという思いもあります。女性の声を聞いていても「いや、

私なんてとんでもない」、「女だから入れない」ということをよくお聞きします。だから女の人の意識も潜在的に「言ってもいい」、「一緒に考えていい」となるような環境があれば一番いいのかなと思います。市長さんには伝播していただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

【N委員】

先ほど述べられた女性の役員がいらっしゃる4町会というのはほぼ根上ですね。緑が丘は辰口ですが、昔からの在所じゃなくて新しい団地なので。根上、寺井、辰口と比べると、辰口のほうがやっぱり昔からのそういう意識が強く、女性は手を挙げればいつでもいいのでなくて、手を挙げられない状況というか、挙げづらい、意見を言いつらいという昔からの風習があるのかなと思います。今言われたように、町会長連合会の役員会とかで女性の意見をもっと聞くようにとか、そういうお声かけをしていただくだけでも違うのかなと思います。

【井出市長】

それは全然やぶさかじゃないのです。ただ、問題はどこの場面で登場していただくか、ということだと思います。町会・町内会の連合会で、例えば、私から女性の人をもっと登用してくださいよと言えば、皆さん「わかりました」と言われます。では、実際に手を挙げられる方がいらっしゃるのかどうなのかということだと思います。

【N委員】

それは、そうだと思いますが。

【井出市長】

それから、それは各町会・町内会によっていろいろ事情があると思います。あとはそれぞれの町会・町内会での現場の話になってくるとと思います。そのときに、本当にそういった方が何人いらっしゃるのかということです。

【委員】

町会・町内会レベルで言うと、公民館の組織を持っているところ、公民館にはかなり女性が入っていると思います。

【委員】

各種団体が入っていますね。

【委員】

ええ、充て職もそうですし、自分も公民館長をやっていたときに女性にお願いして何人

か入ってもらいました。どうしても公民館行事というのは、女性も入っていただかないと幅広い活動がしにくいです。公民館組織にはたくさん女性が入っていると思います。公民館ですごく活躍されている人がうちの町内でもいます。ただ、そういう人が町内会に入ってくるかといったらそうではないのですが。そういうところに関わっているというのは事実としてあるので、まんざら男ばかりで進んでいるわけではないと感じています。

【委員】

もっと、意見を出しやすい、手を挙げやすい形づくりができればいいかなと思います。

【委員】

いろいろ聞いて、本当に手を挙げられる方がいなかったら何もできないですが、こうやって10年以上プランにいろいろ取り組んでいて実際に手を挙げる方がいない、そうしたら、もう待つのではなく、ある程度攻撃的に市の目標が7%であるなら12人のうち1人は女性の人になってほしい、そういう発信をしていかないといけません。だから、町会の事情というのはもちろんわかりますが、その中でも何とか縛りをつくるぐらいの覚悟でやっていないと進んでいかないという思いはあります。

【司会】

では、次の提言に行きます。N委員、よろしくお願いします。

【N委員】

女性が参画しやすい環境づくりということで、T委員の意見をもとにして出されている意見なども踏まえた形の提案をさせていただきたいと思います。

能美市男女共同参画プランの基本目標Ⅱに「方針の立案・決定の場における女性の参画の拡大」があります。平成22年度に策定されて以降、残念ながら方針どおりには拡大できていないのが現状ではないかと思います。

プランの中に示されているように「女性が参画しやすい環境と仕組みづくり」「チャレンジできる機会の拡大」「審議会などへの女性委員の占める割合の拡大」は具体的に進んでいるようには感じません。何より、女性自身、仕事や家庭、子育てで参画を躊躇することが一番の弊害かと思います。そのために、女性が能力を高めるための仕組みづくりと機会の拡大として人材育成、学習できる環境づくりが盛り込まれています。例えば、審議会などに小さいお子さんのいる若いお母さんが出席しやすいように、子供連れでの出席を可能にする託児環境を整える、また開催時間も女性が参加しやすい工夫など、固定観念をなくしてどんどん進めていただきたいと思います。

多様性が求められる社会では、女性のみならずシニアや障害者、また、外国人など、そういった声も、誰もが住みやすい能美市を実現するために必要な声だと思います。また、社会的なことは男が出るもので女は家庭にいればいいという無意識の偏見、固定観念をなくす意識の改革が最も望まれることです。もちろん、それをなくすのは容易なことではないと思いますが、さまざまな広報の機会、市役所職員の働き方改革、仕事に対する姿勢の中からもそのような能美市の雰囲気発信していくことに自然と変わっていけるのではないのでしょうか。

【井出市長】

託児環境を整えるという話ですが、女性の方がたくさん来ていただけるような市の行事の場合、託児所を設けるようにしています。例えば、「まなびフェスタ」の場合は、351人の方にご参加いただいて、託児所をご利用になった方は親子で8名でした。実態はそれほどご利用いただけていない状況ですが、託児所はきっちりこれからも設けたいと思っています。

それから、開催時間の件について、市が主催のイベントや会議の開催時間を見ていると、大体7時半が多いようです。それはお仕事を終えてから参加をしていただけるようにという配慮の中で7時半にしているようです。

それから、市役所職員の働き方改革ということで、女性職員何人かにヒアリングをしました。皆さん、男女の弊害は感じないし、子育てもやっているけれども両立できていという声が多いという実態でした。

その一方で、今、婦人会、女性会の人数が減ってきています。これを何とかしたいというご相談もいただけていて、もっとたくさん来ていただくために魅力ある行事だとかイベントをふやしたらどうかというご提案をしたら、そんなのは要らないと言われました。たくさん行事をつくったら行かないといけなくなるという声も一方で聞きます。そうすると、たくさん行事、魅力あるものをふやしていくほうがいいのか、それとも、限られたものだけを適時、適切にやったほうがいいのかということは、自分自身も迷っています。また男女共同参画の委員の皆様でそのあたりいろいろご相談いただいて市のほうにご提案いただければと思います。

【N委員】

私が思っている職員の働き方改革というのは、女性職員というよりも男性職員がどんなふうに感じているかということです。仕事ばかりではない、家庭を重視した仕事、帰り時

間を多少早くする、あるいは育児休暇の取得率を上げていくということです。一方で、女性も仕事をしたいとなると、お父さんの育児協力や子育て協力は非常に大切だと思います。また、女性が夜のいろんな会議とかイベントに対しても、参加しやすくなるのかなとも思います。その辺も、女性だけでなく、男性も意識して変わっていただけたらと思います。

【井出市長】

今までのタウンミーティングで、例えばボランティア団体がしている行事、福祉関係の行事に出てくる市の職員が極めて少ないというご意見をたくさん頂きました。公務プラスワンという言い方を県の職員はしていますが、プライベートの時間を使ってできるだけ市民の皆さんが協働でしている行事にもっと出てきてほしいというご意見も今たくさんいただいています。その一方で、家庭も大事にしなければならないということもあります。また一度我々職員のほうに実態も聞いてみながら、両方ともバランスよく進めていきたいなと思います。

【司会】

そのほか、意見ありますでしょうか。

【委員】

託児の話がちらっと出ました、確かに「まなびフェスタ」では、毎年託児は設けていますが利用は少ないです。しかし子育てネットワークで開催している親子でつくる料理教室では30人ぐらい利用されます。いろんな場面でそうですけれども、子供は連れていけないほうがいいとか、それぞれの方が判断されていると思います。やっぱり日本人って一歩引いたところにいるのが美德だと小さいときから育てられているので、なかなか「つれてきていいんですよ」が伝わりにくいのかなと思っています。

【司会】

では、次に移りたいと思います。K委員、お願いします。

【K委員】

私からは、地元企業にポイントアップ制度というものを制定ということで。3月25日に能美根上インターも開通し、ますます優良企業がこの能美市に来てくれるのではないかなと思っています。それも踏まえ、今現在、能美市で一生懸命仕事をしている企業に何かポイントアップができないかなということで提案します。

男女雇用機会均等法が平成28年3月に改正され、平成29年1月から更に平等が推し進められ、性差によるハラスメント防止処置が新設されました。法的には少しずつ前進している

ように感じます。しかしながら、形式的な雇用や役職にとどまり、もう一步深いところまでは進んでいないのが現状です。

そこで、能美市地元企業に認定区分によるメリット処置をグレードアップされてはと考えています。市においても、既に取り組んでおいでだと思いますが、案として制限企業、実践企業、優秀企業の3段階、もしくは5段階の認定区分を定めてインセンティブを差異化し、意識をもっと高めていただきたいと考えます。

長期継続も加味して最高10点から15点、市の競争入札に点数で加算し、それを公表し見える化することで市内企業の思いが変化すると考えています。

製造業等で入札の利点がない企業につきましては、点数をためていただくことで減税も方法の一つかなと考えております。

市の協力、後押しが推進委員の活動の幅を広げると考えています。能美市の現状の取り組みとこれからの考えをお聞かせください。

【井出市長】

まず、入札制度についてです。能美市の場合は建設関係の入札においてポイント制度がありまして、女性の技術者を雇っていらっしゃる場合はプラス10点加算する仕組みになっています。現状、企業さんはその仕組みをあまり利用していないというのが実態です。

石川県は、石川男女共同参画推進宣言企業になるとポイントになる制度があつて、それを利用している企業は何社かあるようです。

私は、なかなか仕事がない時代にはこういった制度はすごく有効だったと思いますが、今、世の中は人手不足の状況だと思います。どちらかと言うと企業さんが人を雇用したいという状況で、男性だ、女性だということで雇い入れるということではなくて、女性の特徴を生かせる仕事に女性についてもらう、それから、自分のやりたい仕事につけるような、そんな環境を整備することのほうが私は重要だと思います。こういうポイントをつけて、インセンティブをつけて人だけ雇いましょうということではなくて、本質的に男女共同参画を目指していくほうがいいのではないかと、そんな気がしています。

【司会】

次の提案に移りたいと思います。N. Y 委員、よろしく申し上げます。

【N. Y 委員】

昨年、市長にも来ていただいたフォーラムの講演会ではワークとライフのデザイン戦略の話がありました。ワークショップに参加された方の意見を聞くと、政府が推進している

働き方改革にも繋がるよい内容だったのではないかなと感じます。

私自身、29年度から男女共同参画推進委員になり、部下の教育を支援できる上司になりたいと感じましたが、寺井高校の生徒さんの発表を聞き、年代が若くなるほど男女のこうあるべきという考えが全くなく、平等の意識が強いと感じたのと、親が家庭内でやっていたら、子はそれが当たり前になるとも感じさせられました。

それを前提に考えると、やはり男女共同参画を当たり前化するにあたって考えられるのは、大まかに幾つかに分けられ、それは、やはり教育と情報発信ではないかと思います。文字どおり教育は男女共同参画をいかに理解して実行していくか、情報発信は、いかに男女共同参画を知ってもらうかの活動や媒体だと思っています。

まず、先に述べました、家庭内で親がやっていたら、子は当たり前になるという話のように、いかに家庭内で浸透させるかということについてです。保育園児から高校生までのお子さんがある親御さんたちを対象にいかに教育をしていくか、これは、PTAや各種団体にも協力をいただかないといけないことですが、出前講座などを開催し、教員や親御さんたちに少しでも理解してもらい、行動に移してもらうことがポイントになるのではないかと思います。

次に情報発信では、いかにPR活動ができるかです。既に能美市ではケーブルテレビなどを使い、市の情報発信に力を入れていると思います。各種団体もそうですが、どのような活動をしているのかをいかに発信し、理解を求め、深めていくかというところで足踏みをしているようにも思えます。やはり、ここが重要なポイントになりますが、誰しもが自分時間で見ることができ、また自分時間で情報を知り、学ぶことができたなら、個々それぞれが負担もなく自分時間を有効活用でき、取り入れやすくなることで環境が少しずつ変わり、男女共同参画がどの世代でも当たり前になるのではないかと考えます。

そこで、インターネットなどで男女共同参画を検索してみますと、ホームページやYouTubeを活用してPR活動をしている団体があります。男女共同参画推進委員会のホームページを用意し、そこで活動報告や男女共同参画の説明、またイベントの動画をYouTubeなどで情報発信し、その動画もバックナンバーで過去の動画も見られるようにして、いつでもどこでも自由時間に知る、学ぶことができるようにしたらよいのではないかと考えます。

市のホームページに各種団体のページを設けていただくことの協力ができないのか。また、その中の1ページで男女共同参画社会のPRをすることができないのか。市で情報発

信に力を入れている「nomiチャンネル」やホームページで活動PRができないのか。
以上、3点をお聞きしたいと思います。

【井出市長】

まず3点とも、どんどんやりましょう。問題は、どんな情報を流すかです。今、能美市ではUターンの促進を一生懸命しています。Uターンを促進させるためには、誰にどんな情報をいつ流すかということは今一生懸命考えています。例えば、首都圏の大学に通っている子供たちに情報を流そうと思っても、まず名簿がありません。それから、ただ単に能美市の企業はこんなところがありますといったかた苦しいパンフレットを送っても、誰も見てくれません。それで、今どんな工夫をしているかという、漫画をつくってそれを読んでもらえるように、いろんな仕掛けをしています。

それから、先日開催した成人式の後に、各中学校単位の思い出の写真を映す時間があります。その合間を縫ってその漫画をアニメにしたものを上映しました。そうすると、本当にみんな関心を持って見てくれました。

それから、その漫画を保護者の人に送ろうとしています。Uターンを考えている子供が本当にUターンするかどうかを最後相談するのは親だと思います。親に、能美市にはこんなすばらしい企業がいっぱいある、帰ってくるとこんないいことがいっぱいあるといったことを伝えようとしています。

だから、この3つもぜひやればいいと思います。問題はどんな情報をどんなタイミングで流すかというところが一番ポイントだと思います。それをぜひきょうのメンバーの皆さんで考えていただきたいという思いであります。

まず、ホームページは地域振興課のページに、男女共同参画を紹介する、どんなことをやっているかというメニューを張り付けることは可能です。それから、市の業務としてホームページを設けることも可能です。ただ、そこにいろんな人がアクセスしてもらえるような仕掛けが必要です。それは、やっぱり皆さんでぜひ考えてほしいと思います。

それから、「nomiチャンネル」にもぜひ出てください。

【N. Y 委員】

私は、能美市のポスターが好きで、それにはQRコードがついています。男女共同参画のQRコードを作成して、そのQRコードで入ると、市のホームページにもつなががっているのはおもしろそうだなと考えていていました。

【井出市長】

市の中では男女共同参画も重要施策の一つですが、ほかにも重要な施策があるので、あのポスターのQRコードからアクセスして、いきなり男女共同参画につながる仕組みというのはなかなか難しいです。

【N. Y 委員】

そうですね。できる、できないことはあると思いますが、例えば、男女共同参画で何か出すものに関してはQRコードをつけるといいと思いました。

【井出市長】

例えば、男女共同参画のセミナーやイベントをするときにチラシを配って、そのチラシにQRコードを張っておくということはできることだと思います。それは、さっき私が申し上げたどんな工夫をするかという話です。

それから、今、「広報のみ」に市内で頑張っている女性を紹介していくコーナーをつくりたいと思っています。以前した女性農業者の方の特集がとても好評でした。長続きするようなコーナーを今企画中ですので、また皆さん、協力をお願いします。

【委員】

「広報のみ」はすごくよくなりましたね。すごく読みたくなります。前はさらさらと読む程度でしたが、今は読みたい部分が各所にあるので、すごくよくなったと思います。

【委員】

でも、ホームページは何か、ありきたりな市のホームページって感じがします。

【井出市長】

待っていてください。平成30年度いっぱいかけて、みんなにびっくりしていただけるようなホームページを作成します。

【司会】

それでは、最後の提案にいきたいと思います。M委員からお願いします。

【M委員】

このたびは、忙しい市長さんに貴重な時間を割いていただきタウンミーティングができますこと、本当にありがたいことで、今後の活動に勇気、元気が出て、ますますやりがいが出てきます。本当にありがとうございます。

私は男女共同参画に携わって15年になります。女性センターから女性基金もいただいて、女性向けの団体に他県から講師を呼び大型のセミナーもやりました。JA根上出身なので、農村、山村、漁村の男女共同参画のセミナーもやりました。

この荒波の世の中では、いろんな職種、年代、地域、夫婦、親子で役割分担をして助け合い、サポートしながらたくましく立ち向かって生きていく、生き抜く力、人間力が必要だと思います。男女共同参画社会はしっかりしたコミュニケーション能力、とても大事な傾聴の力を先代から若い世代につなげていく力であると考えています。

現在は便利になりすぎ、また、忙しすぎて相手に求めすぎることもあるので、もっと自分磨きが必要だと思います。精神力を鍛えてもっと人間の根底の部分をしっかりせねば大変な時代が来ると思います。

男女共同参画は現代にマッチしたやり方で小さなこと、小さな集まりの中でこつこつ広め続ける必要があると思います。

そこで、市長さんをお願いします。いろんなセミナーを開いても参加できる人、したいけど参加できない人もいます。とっつきにくく敬遠されがちな男女共同参画をもっとわかりやすく、あらゆる世代に理解していただくためにも、市長さんが出られるところで常に自然なお言葉で伝えてもらいたいと願います。一番弱者の立場で考えて、いろんな伝え方、いろんなやり方があると思います。素敵な能美市民のため、地域、世帯、職種の格差が出ないように、私たちと男女共同参画を一緒につくりあげていきましょう。

別の話ですが、今、私は認知症キャラバンメイトとしても活動しており、社協、高齢者支援センター、高齢者ががやき支援室からの依頼で地域のサロンをいろいろ回ってトーク、歌、寸劇をしています。その中で、あるある漫談なるものをしており、おもしろく、おかしく説明をしています。なじみやすく参加者の皆さんも楽しんでくれていますので、男女共同参画推進委員会としても啓発活動の参考にしたいと思います。

さきほど、地域のことで公民館活動の話が出ましたが、自分に合った、男女関係なく、できることをできるときにすればいいと思います。もっとおおらかにいろいろやれることがあるのではないかと考えています。宣伝をよろしくお願いします。

【井出市長】

まず、男女共同参画を伝えるときに、どんなメッセージを伝えれば皆さんにわかってもらえるのかというのが一つあります。寺井高校生を対象にしたアンケートを見ても、それほど男女共同参画について不公平感を感じていない、別に男性だから、女性だからといって何か違いを感じたということもないという声を聞いています。

それから、男女共同参画のセミナーをしたときに来てくれるのは、やっぱり興味のある方だと思います。問題は、男女共同参画を浸透させるためには、興味がない人、あんまり

感じていない人にどう伝えていくかというところです。これはとっても難しいことで、問題はどんなときにどんなメッセージを伝えていくかということがとても大切だし難しいし、それをうまくやれば底上げになってくると思います。

ぜひ皆さんの中でいろいろ意見を出し合っていたらいいというか、協議をしてほしいです。金沢市が男女共同参画を進める上での数値目標として掲げている項目があります。金沢市はこれが達成できれば男女共同参画が進んでいるということで、検証をしていこうという項目と数値目標と実態です。

じゃ、能美市が男女共同参画を進めていく上で、何を達成できれば男女共同参画が進んだなと感じていただけるのか、その数値目標をどう立てようか、その数値目標を達成するために何をやっていけばいいのかということをお話していただくのが一つの男女共同参画を進めていく上での方法ではないかと思います。

能美市というのは、女性就業率が県内第4位です。19市町ある中の第4位です。それを3位にするというのも一つの大きな目標値だと思います。では、3位にするためには何をどうしていけばいいのかということがないといけません。ぜひ、これから皆さんと一緒に話し合い、そして、平成30年度に能美市としてどんなことをやっていけばいいのかということと一緒に考えさせていただければと思います。

ちなみに、今のところ、アンケートをする予定です。何でアンケートをやるのかというと、能美市には男女共同参画プランがあって、平成31年度が最終年度になっています。ですから、31年度に見直す必要があります。見直すために、前の年の平成30年度にアンケートをとる予定をしています。市民の皆さんの男女共同参画に対するいろんな意識や要望を確認して、平成31年度でプランを見直して、32年度から新しいものをスタートさせようという事業です。

それから、6月が男女共同参画強化月間なので、そのときに何かイベントをできないかということで、また皆さんといろいろご意見を交わさせていただきながらそれを迎えたいと思っています。寺井高校生にも話を聞く予定にしていますし、また何かご意見とかご要望があればお聞かせいただければと思っています。よろしくお願いします。

【会長】

今、市長さんもおっしゃったように、男女共同参画っていうのは市民の皆さんに理解がたいというか、言葉が固いものでうまく受け入れられてもらえていないと思います。それで、何か、すんなりと受け入れてもらえるようなキャッチフレーズがないかなと、それ

を掲げて受け入れやすくなれば良いと思って考えたこともありました。これからまた市民に向けて男女共同参画をもっとわかりやすい短い言葉で受け入れてもらえるようなキャッチフレーズを考えていければいいかなと思っていますので、またその点でも皆さんとご相談しながらやっていきたいと思っています。

【司会】

それでは最後に市長から挨拶を申し上げます。

【井出市長】

最後、会長がおっしゃったように、男女共同参画というのはとつてもかた苦しいと、妙に勘違いされている方も多いのではないかという気がしています。そんな難しいことではないとは思っています。

例えば、商工会女性部というのは本当にいろんな面で活躍をされておられて、その活躍をされている姿というのは全国のニュースに登場したほどでありまして、別の言い方をすると、能美市はかなり男女共同参画が進んでいるのではないかと思える一面でもあるわけです。

実際、会社を見ても、女性の社長さんで頑張っていらっしゃる方も知っていますし、会長さんも頑張っておられます。それから、「さらい」だって女性の方が頑張って、あれだけ経営が成り立っていらっしゃるわけだと思います。本当に実態とすると進んでいるのではないかという思いがあります。市議会議員もお二人が女性ですし、市役所も女性が頑張っています。きょうも市役所の出席者5名のうち3人が女性です。

ですから、それをいかに勘違いされている方や感じていない方に広げていくかということとかが大切ではないかと思います。そのあたりをまた我々も一生懸命やりたいと思っていますので、男女共同参画委員会の皆さんにおかれましても、引き続きご支援ご鞭撻を賜れば幸いです。

【会長】

ありがとうございました。大変貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。

これからも、私たちもできる限り頑張っていきたいと思っておりますので、またご支援、よろしくお願いいたします。